

## 「憲法事件を歩く」単行本に 本紙長期連載 岩波書店 来春出版へ

岩波書店は、信濃毎日新聞の長期連載「憲法事件を歩く 理念と現実のはざままで」を単行本として出版すると決めた。発行は来春の見通し。  
担当編集者は「憲法の理念に合わない現実を問うため立

ち上がった人々の軌跡と思いがリアルにつづられ迫真性がある。憲法改正論議が大詰めを迎える中、物語として読める本は幅広い層に憲法への関心を引きつける」と話している。

連載は2020年11月に開始。平和の原則、政教分離、生存権、学問の自由、思想良心の自由、表現の自由、平等原則と、憲法の条文ごとに関連する事件・訴訟を取り上げ、本日付で第8部（個人の尊重）が終了。計86回になった。

渡辺秀樹編集委員が4年がかりで全国を歩き、憲法判断を司法に求めた人々を取材。当時の裁判官にも話を聞いて判決の背景に迫り、人間ドラマを描いた。

連載で判決確定前に書いたものは、出版に当たってその後の経過を加筆。国会でも取り上げられた関連スcoop「判決文コピペか 生活保護減額訴訟」も収録する。

連載は、むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞特別賞、平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞を受賞。26年の公開を目指しドキュメンタリー映画の撮影が進んでいる。